



ハートで
ぬくもりと安心を
お届けします

さくらだより

第41号

2017年4月15日



特集

伏見センター

- 事業
新総合事業について
- テーマ
50年後の未来！
- FREE フリー
介護と音楽
- サービス
サ高住って？
- 事業所リレーコラム ●編集後記

新総合事業が始まります

平成29年4月より京都市介護予防・日常生活支援総合事業が開始されます。

新総合事業として、要支援の方への訪問介護・通所介護と介護予防事業が訪問型サービス4類型・通所型サービス3類型、一般介護予防事業に再編をされることとなります。サービス類型が多様化することで、高齢者の状態像に合わせた柔軟かつ今まで以上に適切なサービス提供が可能になると考えられます。

新総合事業を考える上で高齢者の状態像により、途切れることがない新たな支援サービスを提供できるようにありますが、より重要で大事な視点は、社会福祉法人として社会に対し、果たすべき役割が大きく変化する契機として捉えることにあります。また、役割変化の視点としては、①介護の社会化により、介護問題から解放された家族、地域による新たな支え合いの形を提示すること、②介護サービス提供から介護予防の取り組み

へシフトしていく必要性、③住み慣れた地域の中で暮らし続けるために生活支援・福祉サービスの充実を図ること、があります。

こうした視点を基本に新総合事業は、単に新しいサービスが開発されると考えるのではなく、「介護サービス提供事業モデル」から、地域の中で暮らし続けるための「制度外サービス創設事業モデル」への転換点と捉える必要があります。

そうだとすれば、新総合事業とは、地域の支え合いを基盤としながら、地域の中で暮らし続けるために必要となっている支援の一類型にすぎず、総合事業を通じて我々が実現すべき価値は、制度化の有無にかかわらず、住み慣れた地域の中で自分らしく暮らし続けることが出来る支援を提供することにその本質があるといえます。総合事業の意義をそのように理解し、改めて我々自身の社会的な役割を確認し、ご本人・ご家族を含む社会的期待に積極的に応えることが、今求められている気がします。

50年後の未来!

京都老人ホームの未来

現在、大亀谷に位置する京都老人ホームでは、養護老人ホーム、特別養護老人ホーム、短期入所生活介護、訪問入浴、配食サービス、就労継続支援A型と、数多くのサービスを提供しています。また福祉事業以外では、朝市等の地域の方々との交流を目的とした企画も開催しています。

今後は何かに特化したサービスを提供し、他施設との違いを確立することができれば、より一層皆様には選ばれる施設となるのではないのでしょうか。

そのひとつとして、露天風呂や足湯などのホッとひと息つける場所のご提供。また、施設内の「きつちんさくら」で、料理の腕がなる福祉ならではのレストラン営業。その他ゲームセンターやスポーツジム、囲碁や将棋などが楽しめる多目的ルームを設ければ、介護予防にもつながります。あらゆるサービスを利用者の方々だけでなく、一般・地域の方々にもご利用いただくことで、交流の場としてにぎわい、老若男女問わず集える京老パークになれば嬉しいですね。

またワークパートナーYUI（就労継続支援A型）をへて、京都老人ホームへの就職。養護老人ホームの方の就労の場となり、社会復帰へとつながります。託児所併設をすれば、子育て

中のお母さんも安心して働ける施設となり、地域が活性化し、暮らしやすい町となりますね。近い未来、京都老人ホームは地域になくてはならない施設となつていくのではないのでしょうか。

50年後の未来

その先の50年後はなかなか想像ができないですね。

現在、人口知能ロボットのペッパー君が開発され、家族の一員となっているところもあります。近い将来、コミュニケーションだけでなく、スポーツ等の趣味を一緒に楽しめたりと、介護予防にもつながるロボットが開発されることでしょうか。また、寝たままボタンひとつでベッドがお風呂へと！ ベッドから電動車椅子へと！変形する機械が開発されたり、介護の世界の発展も目まぐるしいことでしょう。そうすれば、高齢になっても人の手を借りることが少なくなり、恥ずかしい、申し訳ないというような思いをしなくても済むかもしれませんね。その他、脳波をキャッチし、気持ちや感情を受け取ってくれるロボットができれば、心身共に支えとなり、たくさんの方々がいきいきと自分らしい生活を送れるようになると思います。

そして先程述べたように、京老パークは、たくさんの方がいろんな形で利用できる施設へとなっており、現在よりもっとたくさんの方々に答え、幅広いサービスを提供できるようになっているのではないのでしょうか。



特集

伏見センター

障がいや高齢の垣根をなくし「もっと、ずっと、この町で住み続けたい」をお手伝いいたします

デイサービスセンターつどいばとケアプランセンターつどいば

平成29年度より開始される総合事業も含めた、軽度者に特化したデイサービスです。併設のヘルパーステーションやケアプランセンターとの連携により、いつまでも住み慣れた地域で生活していただけるお手伝いをさせていただきます。

特徴

- ・本格的なキッチン設備あり
- ・午前午後の半日型デイ
- ・社会参加を目標とした取り組み

第二にっこひろば(放課後等デイサービス)

学校通学中の障がいのある子どもさんが、放課後や夏休み等の長期休暇中において、生活能力向上のための訓練等を継続的に提供することにより、学校教育と相まって障がい児の自立を促進するとともに、放課後等の居場所づくりを行うサービスです。

伏見センター(訪問介護/居宅介護等)

勤続年数10年を超える経験豊富なヘルパーが多数在籍、活躍しているヘルパーステーションです。歳をとっても、障がいがあっても、その人らしく暮らし続ける為に、サービスと安心をご自宅にお届けします。

京都市南部障害者地域生活支援センター「ふかくさ」

障がいがあってもなくても地域の中で生き生きと参画していける社会を目指しています。同じ生活者の視点から、当たり前暮らしが保障できるノーマライゼーションの立場で相談援助を行います。



3階
 ・デイサービスセンターつどいば
 ・地域交流スペース

2階
 ・放課後等デイサービス(第二にっこひろば)

1階
 ・京都市南部障害者地域生活支援センター「ふかくさ」
 ・訪問介護/居宅介護等(伏見センター)
 ・居宅介護支援
 ・短期集中運動型デイボランティアルーム



取り組み①

放課後等デイサービスでは、楽しみなから能力アップ! 楽しい工夫がいっぱい!

放課後等デイサービスは、小学生だけでなく、中高生までを制度の対象としています。もちろん、年齢を重ねるにつれ、様々な個別的関わりも必要となってきます。伏見センターでは個室もいくつかあるため、そのハードも利用しつつ、集团的支援と個別的支援を行っています。また、京都市南部障害者地域生活支援センター「ふかくさ」との連携により、その時々に応じた支援をコーディネートすることが可能になります。今後は、高齢デイサービスとの世代間交流などもおこなっていきたく考えています。

取り組み②

料理教室では、たくさんの人のかかりがある!

伏見センターのデイサービスは、軽度者に特化したデイサービスとなっています。朝2時間、昼2時間の2部制になっています。色々なことを学びたい、働きたいと思っている方を支援し、実現していただく、短期間デイサービスです。また、現在の取り組みとして、地域包括支援センターと協同して、料理教室も行っています。料理作りを楽しんでいただくだけでなく、外出の機会を作ることで介護予防につながり、また必要なタイミングでスムーズに支援につなげられるというメリットもあります。デイサービスで料理を作っていたら、作った料理を家に帰っていただき、作った料理の体験教室です。楽しさを感じてもらおうとにも、重度化したときに伏見センターのよき存在がある、ということを知っていただくためです。軽度者の方は、

包括の対象者ともかさなっているのと、同じ施設内で協力していけるといふメリットもあります。

将来的には、利用者さまが作った料理を地域の方にお分けしたいと思っています。

- ・男の料理教室
- ・「一緒に作ろう!おやじごはん」バレンタイン企画
- ・「手作りスイーツで女子力アップ」
- ・男性限定

ハンバーグとポテトサラダ等の取り組みを行いました。

真空パックを使用し、本格的な販売を行うことでさまざまなメニューが生まれます。

お惣菜を家に持って帰ることで、家庭での役割が生まれる。様々な方への販売を目標とする中で、現役で働いているという実感をもってもらい、意欲アップに繋がる。

毎日お惣菜を買って食べるのではなく、家でも少し手を加えて調理することができるようになる。もちろん、料理だけでなく、「学びたい」というニーズにこたえるため、スマホ教室やコーラス、運動教室、脳トレなどのメニューも用意していく予定です。

取り組み③

1回りの勉強会で、みんなで地域を活性化!

誰でも自由参加な「ふくしの寺子屋@伏見センター」を毎月開催しています。

- 12月「認知症サポーター養成講座」
- 1月「介護保険制度」
- 2月「障がいの基礎知識」
- 3月「サ高住について」
- 4月「高齢者体験会と福祉用具について」

気楽な雰囲気の中、法人の枠を超えて学びあう機会を作っています。もちろん、福祉職の方だけでなく、地域の方にもお越しいただいています。この寺子屋を通じて、少しでも支援者や理解者が増え、住み良い地域づくりにつながれば、と考えています。

センター内の各サービスの連携を図ることで、地域でより長く生活していただけるお手伝いを行いたいと考えています。

見学、随時受け付けています!お気軽にお問い合わせください。



介護と音楽

私たちは皆、趣味を持っていると思います。スポーツ、旅行、芸術、読書、ゲーム…。まさに人の数だけ、趣味も色々あることでしょう。若いころから続けている趣味、仕事を退いてから見つけた趣味、ついこの間から始めた趣味…。その趣味をたしなんできた長さも色々だと思います。また、残念ながら、年齢とともに続けにくくなる趣味もあると思います。年齢を重ねると、スポーツを若いころと全く同じように続けることは難しいでしょうし、他にも体の変化とともに楽しめる範囲が狭まっていく趣味もたくさんあると思います。

では、年齢を重ねても、子どものころからずっと変わらずに楽しめる趣味にはどのようなものがあるのでしょうか。音楽を楽しむことは、数少ないそういった趣味のひとつではないでしょうか。このたびは、介護と音楽の関わりについて、当法人内のある実践を取材しました。みなさんと介護と音楽について考えることができればと

思います。

「板橋の家ほっこり」小規模多機能型居宅介護では、二週間に一度、地域の方のボランティアによりレクリエーションが実施されています。レクリエーションの内容は歌、音楽のみならず、紙しばいやゲー



ム、季節の催しなど、1時間ほどの間にバラエティーに富んだプロ

グラムが展開されています。昭和歌謡がラジカセから流れるなか、ボランティアとご利用者全員との握手が交わされます。そして、最初の全員で歌う曲「幸せなら手をたたこう」。誰もが知る明るい歌詞に合わせ、快い手を打つ音が響き渡ります。続いてご利用者が歌詞を考えた「ほっこの歌」。

「大人も子供も輪になって きれいな花を咲かせましょう これから生きがい みつけましょう」

有名な時代劇の主題歌のメロディーに乗せて、歌を口ずさむご利用者の笑顔の花が咲きます。その後もレクリエーションはテンポよく、朗らかに進行していきます。その日のプログラムは、昔話の紙しばい、間違い探しゲーム、獅子舞と続いていきました。その間、ご利用者の笑い声はたえることなく、時間はあっという間に過ぎていきました。最初の音楽を使った導入が、その後の盛り上がりにも効であることが良くわかりました。レクリエーション終了後、ボランティアの辰巳さんにお話を伺いました。



「レクリエーションのなかで歌う歌は、季

節感を大切にしようにしています。そして、ご利用者の好みに合わせた選曲を心がけています」

本日の「幸せなら手をたたこう」の選曲は、ご利用者のお好みに見事にマッチしてました。そして、レクリエーションに音楽を使う時の悩みも打ち明けてくださいました。



「お一人おひとりの好みの違いもありまして、取り上げる曲のキーやテンポをご利用者全員が歌いやすい様に合わせることが難しいです」

一人ひとりの趣味が違うように、やはり音楽の楽しみ方もつきつめていくと「オーダーメイド」になるのかもしれない。しかし誰にとっても、好きな音楽は気持ちを盛り上げてくれるものであり、また一瞬でその音楽に出会ったところに自分を戻してくれるタイムマシンのようなものではないでしょうか。

介護にもっと音楽を。板橋の家での素敵な時間を過ごし、そんな思いを改めて胸にいただきました。

事業所 リラム

もっと、ずっと、みんなの 一緒に感じて育つ心と体

児童療育センターなないろ 指導員 鳥居 弥生

児童療育センターなないろは、京都市から委託された療育事業です。2012年に設立、この4月で5年を迎えます。

集団に入りにくい、困ったことを伝えることが難しい、衝動性がある、不安や緊張が高いなど、様々な困り感を抱えた子どもたちを就学前まで支援し、関係機関、併行通園先との連携を行っています。親子通園型の通所施設で、親子分離して活動します。子どもたちは遊びを介して必要な支援を受け、保護者の方には、別室にて支援の様子をご覧いただけます。家庭、関係機関とお話ししながら、なないろで行う支援を伝え、より過ごしやすい生活・就学につなげたいと考え、努めています。

少し想像してみてもほしいと思います。よく手足をぶつける、人とコミュニケーションをとることが苦手、嫌な音・匂いがある等、みなさんも感じることはありませんか？私はないなりに勤めて自身にも困り感があることに気づき、より子どもたちの発達段階、障害に関心が高まりました。「あ、これって私にも経験あるな、

この感覚好きだな」と、日々子どもたちと一緒に感じています。理解を深めて肯定、共感する、子どもたちには、そうした大人との関わりを通して、「みてー!」「ほく(わたり)っていいな」と感じてほしいと願っています。

なないろでは子どもたちの好きな遊び、興味のあることに着目して、まずは思いを共感することから始めます。Aちゃんはマットに挟まれることが好き、Bちゃんはベタベタした感触が好き、Cちゃんは電車が好き…等、好きなことをわかってもらうと、その相手により親しみを持ちますね。好きな物で満たされたら、少しずつ他のことに目を向けてみると、触れてみたりと、チャレンジしようとする思いが育っていくように感じます。チャレンジしたとき、「出来る」「出来ない」の2つで判断することがありますが、大切なのは達成するまでの「過程」だと考え、「今日はここまで出来たね」等と伝え、次への意欲や自信を育てたいと思います。保護者の方からは「出来ないことがどうすれば出来るようになる

■ 編集後記 ■

皆様が求めて下さる情報を分かりやすく伝えたい。広報委員を拝命して二年間、その思いを胸に取材や執筆に努めてまいりました。それがどこまでできているか分かりませんが、これからも努力していこうと思います。委員会の仲間の描くイラストに刺激を受けて、自分も下手ながら記事にイラストを描くこともありました。これも「読んで下さる方に分かりやすく伝えたい」という思いからでした。もっとイラストを、上手に書けるようになりたいな…。

広報委員 坂田 周平



サ高住って??

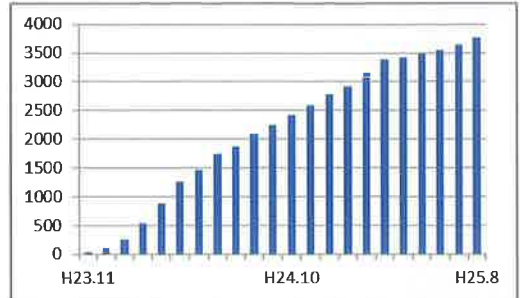
～人それぞれの普通の生活を普通に送っていただけるように～

みなさんは「サ高住」という言葉を聞いたことがありますか？
サ高住とは「サービス付き高齢者向け住宅」を略した言葉です。
特養をはじめ、介護施設の入所待ちが絶えないなか、自宅に代わる新たな住まいとして近年数が増えてきています。

サービス付き高齢者向け住宅とは？

利用条件	施設設備	特徴
自立 要支援 要介護	バリアフリー 安否確認と生活支援	自由度が高い 使っている介護保険サービスを引き続き利用して生活できる 賃貸住宅

棟数の推移



出典：厚生労働省

京都老人福祉協会にも「さくらハウス板橋」と「さくらハウス小栗栖」の2つのサ高住があります。

さくらハウスの特徴

- ・お部屋に緊急通報装置が設置されている。
民間のサ高住では、緊急通報をすると外部の警備会社などにつながることもあるが、さくらハウスでは24時間365日専門のスタッフがかけつける。
- ・生活上の困りごとなどを看護師や介護福祉士といった専門職に相談できる。
- ・毎日安否確認を行なっている。
- ・介護施設と併設しており、他の利用者と食事や交流ができる。
- ・条件が合えばケアマネジャーを変えずに利用できるなど・・・。



さくらハウス板橋の西本さんと片山さんにお話を聞きました。

入居者さんの中には自立の方もいれば、介護の必要な方も増えています。その人に合った日常生活を過ごされており、職員は入居者さんの外出される習慣や介護サービスなどの生活パターンを把握しています。施設ほど関わりは深くないですが、一日1回、食事やゴミ出しの際などに安否確認を行い、少ない時間の中でお話をしながら信頼関係を作り、情報をキャッチできるよう努めています。

常勤の職員がいるため、介護サービスにのせるほどでもない生活の中での小さな悩みや困り事を相談でき、すぐ対応してくれる人がいるという安心感を持って生活できるのも特徴です。不安感から頻繁にご家族に電話をかけておられた入居者さんも、相談できる場があることで電話の回数が減り、ご家族の負担が軽くなったこともあります。

入居者さんはさくらハウスの近くに住んでおられた方、家が近くにある方も多く、住み慣れた地域で生活していくため、ご家族の近くで過ごしていくために利用されています。介護が必要になった時でも介護サービスを受けながら、最期まで馴染の場所でみんなと一緒に生活できるよう支えていきます。

